



外観も全面的に改装。屋根は「いぶし瓦」に葺き替え外壁にも白いスペイン漆喰を塗装し、伝統的な雰囲気にもモダンな要素を加えた



キッチンには天井を設ける必要があり、その上のデッドスペースを活用すべくロフトを設置。現在は来っ子である小学1年生の息さんの遊び場として活用しているが、ゆくゆくは物置として使用するそう



時間が経つほどに風合いが出る、スペイン漆喰。割れやひび割れも起こりにくい

「私のリベ」
Check オーダー

家族3世代がそれぞれ使いやすい間取りを
母は80代、子どもは高校生2人と小学1年生。バラバラの世代それぞれが快適に過ごせ、なおかつ家族の絆が深まる家にしたかったとオーダー。お陰でリビングに家族が自然と集まるようになりました。



リビングは1階部分の天井を取り外し、開放的な吹抜けに。瓦と屋根の下にある野地板の間に断熱材を入れることで、屋根からの熱や寒さを防いで1年中快適に過ごせる



玄関は廊下を楕円のフローリング張り替え、神輿を奥にすらすらと奥行きが生まれた。旅館や料亭を彷彿とさせる、開放感のある玄関が客人をおやかに出迎える



ご主人が熱望したという、アメリカ製の大きな薪ストーブ。周囲の壁にはレンガを取り付けて防火仕様。薪ストーブ前のソファはご主人の特等席だという

古い梁や柱に新たな杉材が融合した、温もりの森
Nさん邸は一部を除き居室や玄関、縁側などを全面的にリノベーション。以前は畳敷きの純和風の雰囲気だったが、全面フローリングの和モダンな空間へ一新。1階には吹抜けたLDKが完成し、ロフトや本格的な薪ストーブも備えた。歴史を紡いだ梁や大黒柱を生かしつつ、新たな杉の柱や腰板、浮造りの無垢フローリングが加わり、家中が木の温もりに包まれた森のような空間に。以前に比べると冬は温かく、夏は涼しく過ごせます。特に冬は日中、窓から注ぐ陽の光だけで暖房が要らないほど。壁はスペイン漆喰を塗ってもらったので空気がカラッと心地よい気持ち良すぎて、よく暖炉の前で寝落ちしています(笑)。

築70年の純和風住宅を
和モダンな“森の家”へ

祖父の代から大切に住みついで来た住まい。面影を残しつつ、親子3世代が楽しく快適に暮らせるように。そんなご主人の温かな願いから始まったリノベーション。新たに誕生したのは、家族を見守る森のような空間でした。

living dining

天井を取り払って吹き抜けにした開放的なリビングダイニング。足元から天井まで木に囲まれた空間はまるで森のように心地よい。ライティングレールで間接照明を取り入れ、温かな雰囲気を演出

すてきなリベのお宅訪問
[声優]
RENOVA
Case 05
ハウスランド社
福岡市早良区[グリーンヒルズ]



3代にわたって歴史をつなぐ
思い出の詰まった住まい
いぶし瓦と漆喰の白い壁が趣深い和モダンな外観。見ただけでは全貌が分からないほどの邸宅には、Nさんご一家が親子3世代6人で暮らす。蔵や納屋も備えるこちららの家はご主人の祖父の代から約70年間任せていないでいる。「祖父が建てた昭和25(1950)年当時 は茅葺き屋根の家だったんですよ。それから父へ私へと主が代わり、増築や改装を重ねてきました。わが家ながらよく住んでいるな」と感じます」とご主人が微笑む。Nさんがリノベーションを考えたきっかけは、瓦の葺き替えだった。屋根は昭和45(1970)年に増築をした当時のままで、雨漏りするようになり、昔の土葺き屋根だったため大規模な修繕を要することも分かった。そこで、部屋の使い勝手も悪くなってきていた。そこをことと家全体をやり変えよう」と全面改装を検討。たまた先代から受け継いできた家を取り壊して新築にするのは避けたいと言ったご主人。現状の家を残しつつ改装できないかと調べていた際、目に留まったのが古民家再生を得意とする「ハウスランド社」だった。